

～ 健口と輝く笑顔のために～

歯科衛生だより 会報

2022 August vol. **70** 発行人/吉田 直美 発行/公益社団法人 日本歯科衛生士会 〒169-0072 東京都新宿区大久保2-11-19
TEL.03(3209)8020 FAX.03(3209)8023 <https://www.jdha.or.jp/>

令和4年度定時代議員会開催される

令和4年6月12日(日)午後1時30分から、ステーション
コンファレンス東京にて定時代議員会が開催された。

開催にあたり河野章江専務理事より、新型コロナウイルス
ス感染拡大防止のため、会場出席者が少ない状況である
が、定款第21条より議決権行使、委任状をもって出席とす
る旨の説明があった。

感染対策のため歯科衛生士憲章は河野専務が読み上
げ、参加者は黙読し、物故会員に対する黙とうをささげたの
ち、議長には山口千里氏(大阪府)、副議長は天本和子氏
(福岡県)、議事録署名人に佐塚真理子氏(静岡県)、小野
淑子氏(山形県)が選出された。

代議員数88名中出席者37名、議決権行使、委任状の合
計47名、合計84名により、定款第18条に定める代議員の
過半数以上の出席で定足数を充たし審議に入った。

初めに吉田直美会長から挨拶があった。新型コロナウイ
ルス感染症では混乱したが、ウェブ会議、研修開催が広ま
り、新しい形として確立することができた。新しい方々と直
接交流する機会が少なくなったがウェブ会議やイベントには
“ゼロ”アクセスできるようになり、時間もコストも軽減され
たことは、ライフステージがさまざまな会員には、大切なメ
リットである。ウェブの世界ではテクノロジーが進化し、歯科
の分野でも活用することになるので、その時々で選択でき

ればと考えている。本会の事業
でも環境整備や技術支援体制を
進めている。また、この1年で
色々なことがあり、「歯科衛生士
の業務に関する研究」について
はまもなく報告ができること、
「歯科衛生士専門委員会」は立
ち上がったが検討中、「国民皆
歯科健診」については日本歯科医師会からは3～5年後が
目処であると見解が述べられた。国の方針が予防にシフト
することは歯科衛生士にとっても大きなニュースであり、こ
の限られた期間に、多くの歯科衛生士が本会に所属し、必
要な技術・知識を継続して研鑽し、対応できるように準備を
行うことが必須である。歯科衛生士が日本や世界で活躍す
る大切な機会でもであると述べられた。

その後、第1号議案「令和3年度事業報告(案)に関する
件」、第2号議案「令和3年度決算報告(案)に関する件」、
第3号議案「選挙管理委員の選任について」の説明があり、
定款第20条1項の規定により承認された。報告事項では
「令和4年度事業計画について」「令和4年度収支予算につ
いて」「監査報告」について説明があった。会は活発な議論
がなされ、拍手とともに閉会した。



大規模災害時における練習画面のご案内 — 9月1日～7日 —

9月1日「防災の日」に合わせ、日本歯科衛生士会のホームページの画面に、大規模災害を想定した「災害特別ページ」を掲載いたします。その画面から「安否登録」「安否確認」の練習を行うことができます。

練習画面の掲載期間は9月1日～7日の一週間です(期間終了後に登録データは削除されます)。有事の際に落ち着いて登録ができるように、ぜひ練習を行ってください。

令和4年度日本歯科衛生士会会長表彰授与

令和4年度定時代議員会開会に先立ち、表彰規程に基づく功労賞および永年精励賞の表彰式が3年ぶりに行われた。令和2年度・令和3年度は、新型コロナウイルス感染症防止により中止された。

茂木美保副会長から受賞者すべての氏名が読み上げられ、永年精励賞74名、功労賞32名の方に授与された。

当日、会場には、永年精励賞11名、功労賞6名が出席された。吉田会長よりご祝辞の後、受賞者を代表して永年精励賞の御代出 三津子氏(兵庫県)、功労賞の松尾 由佳氏(奈良県)が受賞の喜びを述べられた。



謝 辞

「永年精励賞」

兵庫県歯科衛生士会 御代出 三津子 様

このたび、永年精励賞を賜り厚く御礼申し上げます。

振りかえってみますと歯科衛生士の試験は実技試験、口頭試問、試験問題を行い、免許証は都道府県単位だったことを思い出します。実習先ではまだ煮沸消毒でした。それから45年一度も休むことなく、歯科衛生士の業務を続けてきました。本当に歯科医療が大きく変化してきたことを感じます。そんな中で私が一番苦勞したことは縁下歯石を除去するためのキュレットスケーラーを使いこなすことでした。歯肉が健康になっていくことで、患者さんが喜んでくださる様子を見て、走り続けてきたように思います。

高齢者の仲間に入りましたが、今回の受賞者74名は、これからも「健康は口から始まること」を一人でも多くの方々に理解してもらえるように微力ですが活動を続けていきたいと考えています。

最後に日本歯科衛生士会の益々の発展を祈念し、謝辞とさせていただきます。



「功 労 賞」

奈良県歯科衛生士会 松尾 由佳 様

このたびは、「功労賞」という身に余る賞をいただき厚くお礼申し上げます。

歯科衛生士となって43年、私は1年制の歯科衛生士学校の卒業生です。このように長く仕事が続けられるとは思っていませんでしたので、本当に感慨深いものがあります。

中でもブロック理事を経験させていただいたときは、委員会に属しながら日本歯科衛生士会の多くの諸先輩方にご指導いただき、介護保険の中での歯科衛生士の役割を認識し、視界を広げていただいたと厚く感謝しております。

診療所勤務・在宅訪問診療を経て12年前から介護老人保健施設に勤務しています。歯科衛生士として、今までかかわることのなかった職種と協働する日々ですが、歯科衛生士への期待が大きくなっていると感じます。その人らしい生活を口腔から支えるという職務は、ライフステージを問いません。多くの仲間とこの先も頑張っていきたいと思っています。



功 労 賞 (敬称略)

- | | | | |
|-------------|-------------|--------------|--------------|
| 市川 智恵(北海道) | 阿保 ひとみ(青森県) | 岩本 百合子(秋田県) | 菅家 美和子(福島県) |
| 菱沼 清美(茨城県) | 宇賀神 富子(栃木県) | 山野井 映子(群馬県) | 砂川 陽子(群馬県) |
| 丸山 恵子(埼玉県) | 石井 恵理香(千葉県) | 三浦 千賀子(神奈川県) | 中向井 政子(神奈川県) |
| 宮崎 晶子(新潟県) | 小松 雅子(長野県) | 片口 ひとみ(富山県) | 加田 和枝(富山県) |
| 内野 佐智江(石川県) | 石田 由紀枝(岐阜県) | 水野 彰子(岐阜県) | 澤田 寿恵子(静岡県) |
| 金森 いづみ(愛知県) | 金海 京子(三重県) | 堀内 眞規(奈良県) | 畑下 英子(奈良県) |
| 松尾 由佳(奈良県) | 岩崎 小百合(兵庫県) | 山本 三千子(兵庫県) | 小室 恵子(和歌山県) |
| 岩崎 和子(和歌山県) | 竹邊 千恵美(福岡県) | 坂本 由美(熊本県) | 楠元 眞由美(鹿児島県) |

*会員歴30年以上、役員歴が日本歯科衛生士会・都道府県歯科衛生士会を併せて10年以上ある者

(32名)

永年精励賞 (敬称略)

門脇 ひとみ(北海道)	藤澤 雅子(北海道)	牧浦 ひろみ(北海道)	菅原 恵美子(岩手県)
堀越 省子(宮城県)	星 登喜枝(宮城県)	佐藤 みどり(山形県)	茂木 悦子(福島県)
国分 光代(福島県)	宇田 みどり(福島県)	渡辺 裕子(福島県)	檜山 典子(茨城県)
濱名 早苗(群馬県)	高坂 陽子(群馬県)	柴田 明美(埼玉県)	二宮 真紀子(埼玉県)
小平 律子(埼玉県)	吉岡 典子(埼玉県)	藤代 武子(千葉県)	島谷 和恵(東京都)
保坂 治子(東京都)	塚田 直子(東京都)	市塚 節子(東京都)	齋藤 寿枝(東京都)
小山 圭子(東京都)	山崎 喜久子(東京都)	佐藤 郁子(東京都)	鈴木 淳子(東京都)
篠崎 明子(東京都)	大畑 和美(東京都)	福田 和子(神奈川県)	遠藤 道代(神奈川県)
打矢 純子(神奈川県)	藤井 千春(神奈川県)	臺 安代(山梨県)	佐野 久子(山梨県)
澤田 洋子(岐阜県)	若園 秀子(岐阜県)	一ツ松 あつ子(岐阜県)	近藤 悦子(岐阜県)
河村 佐和子(岐阜県)	洞 和枝(岐阜県)	中村 朱見(愛知県)	澤田 紀子(愛知県)
上船 須磨子(滋賀県)	東良 智子(滋賀県)	三村 宏子(滋賀県)	白波瀬 由香里(京都府)
若津 友美子(京都府)	安井 清美(京都府)	岡本 節子(京都府)	後藤 路子(京都府)
福本 はつ(奈良県)	諫川 恵子(大阪府)	塩沢 佳子(大阪府)	山本 富代(兵庫県)
中村 ゆみ子(兵庫県)	御代出 三津子(兵庫県)	西山 美智子(兵庫県)	大村 恵美(兵庫県)
水崎 圭子(和歌山県)	吉岡 陸奈(島根県)	堀 けい子(岡山県)	杉口 寿代(徳島県)
堤 智子(高知県)	竹村 利枝(高知県)	大塚 幸美(高知県)	大野 由香(高知県)
前田 由美(愛媛県)	稲井 由美子(愛媛県)	堀部 晴美(福岡県)	稲盛 寿子(福岡県)
安河内 ひとみ(福岡県)	和気 由美(鹿児島県)		

*会員歴35年以上であって、年齢65歳以上の者

(74名)



武井典子前会長を偲ぶ会が開催された

昨年の代議員会前日に永眠された武井典子様(前会長)を偲ぶ会が、定時代議員会に合わせて開催された。新型コロナウイルス感染症の感染拡大に配慮し、この日の開催となった。生前の武井様を偲び、多くの方が遠方からも出席され、好きだった花とワインが飾られた祭壇の向こうに、全国から寄せられた画像のライドショーと生前の笑顔のお姿が



感謝を述べる吉田会長

映し出される中、献花が行われた。主催者として吉田直美会長から、列席者に感謝と武井様の発病から旅立たれるまでの職務の様子が語られ、ご貢献へ感謝が述べられた。黙とう、ご経歴の紹介の後に、長年執務をともに遂行され、見守られた金澤紀子氏(日本歯科衛生士会顧問)、都道府県歯科衛生士会の会長を代表して武藤智美氏(北海道)、親交が深かった堀正子氏(神奈川県歯科衛生士会顧問)、ライオン歯科衛生研究所の内山章氏から偲ぶお言葉が贈られた。会の終わりに生前の動画が映し出され、武井様からの最後のメッセージのように列席者に届けられた。



金澤顧問より偲ぶ言葉が贈られた

(広報担当 理事 島谷 和恵)

歯科衛生士に対する復職支援・離職防止等推進事業

～ 愛知学院大学短期大学部 リカレント研修センターの紹介と研修事業の取り組み ～

2020年度に、厚生労働省補助事業(歯科衛生士に対する復職支援・離職防止推進事業)である「愛知学院大学短期大学部 歯科衛生士リカレント研修センター」(以下DH/RTC)が、歯科衛生士の離職防止および現役人材育成を目的に愛知学院大学短期大学部に設立されました。



DH/RTCの研修概要

第1期:(おおよそ7月~9月)、第2期:(おおよそ11月~1月)・8日間1年間に2回の研修を開催しています。その他、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により十分な臨床実習体験ができなかった新卒者を対象とした卒後フォローアップ研修も開催しています。

基本プログラム(必須)

歯科衛生士としての役割や心構え、責任のある行動、生涯学習に対する姿勢、キャリアの築き方などを中心とした「歯科衛生士としての基本姿勢」「感染予防対策」「現代歯科医療の動向・保険診療と診療報酬」「全身疾患と歯科治療」「放射線とX線読影法」「歯科衛生過程」の6科目を研修生全員が講義形式で受講します。



基本プログラム講義風景

選択プログラム(選択)

選択プログラムは「口腔衛生管理コース」(表1)と「口腔機能管理コース」(表2)のどちらかを選択します。「口腔衛生管理」では、歯周病予防処置を中心に臨床での基本的な知識と技術が修得できるよう「スケーリング・ルートプレーニング」「シャープニング」「超音波スケーリング」など相互実習室で一人1台のマネキンを使用した基礎技術シミュレーション実習(10科目)を行います。「口腔機能管理」では高齢者の基礎知識の講義と口腔リハビリテーション実習、口腔ケア実習など(10科目)のプログラムが実施されます。全身型高齢者マネキンを使用し高齢者の身体状況に合わせた口腔ケア実習を行うことができます。

表1

表2

口腔衛生管理コースの内容

- 口腔衛生管理I~Ⅲ
- う蝕予防処置I・Ⅱ
- 歯周病予防処置I~Ⅴ

スケーリング風景

超音波スケーリング

口腔機能管理コースの内容

- 高齢者の基礎知識I・Ⅱ
- 高齢者の口腔ケア
- がん治療と口腔I・Ⅱ
- 要介護口腔ケアI・Ⅱ
- 高齢者の状態把握I・Ⅱ
- 口腔リハビリテーション

高齢者口腔ケア実習

車椅子実習

オプションプログラム(選択)

基本プログラム終了後より3か月間の研修期間内に愛知学院大学歯学部附属病院にて臨床見学をします。本学の附属病院は8つの基本診療科の他に、特殊診療外来の見学も選択できます。

<臨床見学診療科> ※太字:基本診療科

- | | | | | |
|--------------|----------------|----------------|----------------------|---------------|
| ① 歯科保存科・審美歯科 | ② 口腔ケア外来 | ③ 歯科補綴科 | ④ 歯内治療科・顕微鏡外来 | ⑤ 顎顔面科 |
| ⑥ 口腔インプラント科 | ⑦ 摂食嚥下外来 | ⑧ 口腔外科 | ⑨ 小児歯科・障害者歯科 | ⑩ 歯周病科 |
| ⑪ 放射線画像診断科 | ⑫ 口腔衛生科 | ⑬ 口臭治療科 | ⑭ 矯正歯科・成人矯正歯科 | |

修了生の声

◆2021年度第1期 M.Mさん(復職活動中・離職期間3年) 口腔衛生管理コースを選択

歯科衛生士業務の基本であるスケーリングやプレーニングなどまーから学べたことがよかったです。歯科衛生士学校を卒業して10年以上経っているので学生時代に学んだことを忘れていましたが、今回このような実習を経験できてとてもよかったです。

◆2021年度第1期 I.Tさん(現役歯科衛生士・勤続年数15年) 口腔機能管理コースを選択

訪問歯科の仕事に就くようになり知識も技術も不足していると感じ研修を受けさせていただきました。高齢社会の背景から歯科衛生士に求められている役割なども総括的に学ぶことができ実りの多い三か月間でした。

研修生の募集などにつきましてはセンターのHPまたはSNSをご覧ください。
愛知学院大学短期大学部歯科衛生士リカレントセンター(DH/RTC)
HP: <https://tandai.agu.ac.jp/dh-rtc/index.html>



歯科衛生士
リカレント
研修センター



シリーズ **歯科衛生研究の紹介** **4** vol.

歯科衛生士が取り組んだ研究論文の中から、歯科衛生士の日常業務に生かせるトピックをご紹介します。今、歯科衛生士には多職種連携においても患者さんに対しても根拠に基づく業務実践が必須です。研究紹介が皆様の業務のお役に立つことができましたら幸いです。

免疫チェックポイント阻害剤で生じる口腔粘膜炎への周術期等口腔機能管理

京都府立医科大学附属病院 歯科 **大坪 牧子**



このテーマに取り組んだきっかけ

新たながん治療薬である免疫チェックポイント阻害剤ニボルマブ(オプジーボ®)は、がん細胞を直接攻撃せず免疫に作用し、有害事象が少ないとされます。一般的に、化学療法で生じる口腔粘膜炎・味覚障害・口腔乾燥症などの口腔合併症は、疼痛や食意の減少の要因となり、患者のQOLの低下や医科の治療遂行の妨げになります。しかしながら、ニボルマブに関する口腔粘膜炎についての報告は多くありません。

そこで本研究は、化学療法で生じる口腔粘膜炎に対する周術期等口腔機能管理の影響と効果を検討しました。

研究の概要

口腔粘膜炎を発症したニボルマブ投与群(ニボルマブ群4例)と従来の化学療法剤投与群(従来群100例)に対して、周術期等口腔機能管理を実施、口腔の状態(声、嚥下、口唇、歯・義歯の清掃状態、粘膜、歯肉、舌、唾液、口臭、開口量、歯の状態、味覚、口腔粘膜炎の重症度)をスコア化し評価しました。

その結果、口腔粘膜炎のピーク時における口腔の状態の平均スコアの合計とその発症率は、ニボルマブ群(17.8点・4.8%)、従来群(18.5点・9.6%)とニボルマブ群の方が低値でした。

抗がん剤の初回投与から口腔粘膜炎の発症までの平均期間は、ニボルマブ群が241日と従来群の56日より有意に長く、口腔粘膜炎の発症に時間を費やしました。そして、口腔粘膜炎の発

症後の口腔衛生管理の平均期間は、ニボルマブ群が84日と従来群の25日より有意に長期でした。

口腔粘膜炎の重症度と歯・義歯の清掃状態の経時的変化(図)では、従来群は介入回数の増加とともに口腔粘膜炎の重症度と歯・義歯の清掃状態が改善傾向でしたが、ニボルマブ群は口腔粘膜炎の重症度の改善と悪化を繰り返し、口腔清掃不良が続く傾向にありました。

日常の活動に生かすポイント

本研究では、ニボルマブによる口腔粘膜炎は、発症率が低く口腔への影響が少なかったですが、口腔粘膜炎の発症に時間を要し、症状が遷延化する症例がありました。このためニボルマブの長期投与例では、晩期に口腔粘膜炎が発症する可能性を考慮して、症例に応じた疼痛の緩和方法と歯磨き指導を含めた、継続的な口腔衛生管理が必要であると考えます。

このように、歯科衛生士による周術期等口腔機能管理は、ニボルマブによる口腔粘膜炎の発症例のQOL向上に貢献し、全身治療の継続の一助になったと思われます。今後さらに検討を重ねたいと考えます。

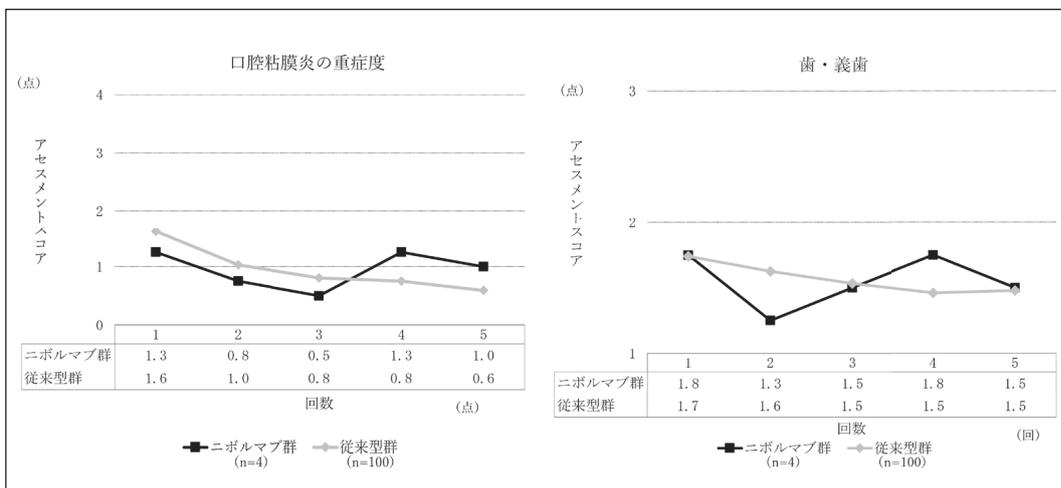


図 口腔粘膜炎の重症度と歯・義歯の清掃状態の経時的変化

第67回日本口腔外科学会総会・学術大会「第14回歯科衛生士研究会」開催のお知らせ

日程 令和4年11月5日(土) 13:00~16:00 **会場** 幕張メッセ国際会議場(千葉市美浜区中瀬2-1)

主催 公益社団法人 日本口腔外科学会 **共催** 公益社団法人 日本歯科衛生士会

◆開催方法、参加申し込み等については、日本歯科衛生士会HPおよび第67回日本口腔外科学会総会・学術大会HPをご確認ください。

(COVID-19の影響により変更の可能性がありますことを申し添えます)

活躍する
認定
歯科衛生士

5年後、10年後のビジョンを！ ～インクルーシブな支援を目指して～

東京都歯科衛生士会 会員
東京都立東大和療育センター
認定歯科衛生士 菊池 栄子



インクルーシブをご存じですか？

調べてみると、「包括的」という意味があります。ノーマライゼーションが根底にあり、すべての人々が社会の一員として、お互い認め合い尊重しながら共生していくことです。私はこの言葉に感銘を受けました。

「障害の有無に関わらず、共に生活していける公平な社会になってほしい!!」という思いを10代の頃から抱いていました。そこには長い闘病生活を送った父の存在がありました。歯科衛生士になって三十数年の月日が経過し、近年、高齢社会と共にバリアフリーの実現や、多様化する社会の中でユニバーサルデザインが進んできましたが、まだまだ差別や偏見はなくならないのが現状です。少しずつインクルーシブな支援が広がっていくことを願います。

振り返ってみると思い悩み、答えが見つからない時、先輩方にアドバイスをもらい、ここまで歩んできたと思います。



良き理解者である桑原部長(右)と

- 20代…開業医で働く傍ら、障害者に関する研修を受講し、自己研鑽の日々でした。
- 30代…豊島区口腔保健センター“あぜりあ歯科診療所”では、障害者歯科診療や在宅訪問歯科診療を、保健センターでは母子の保健指導を経験しました。
- 40代…日本障害者歯科学会で認定歯科衛生士を取得し、東京都立東大和療育センターに入職しました。
- 50代…看護部看護科主任歯科衛生士となり5年が経過しました。現在は、コロナ禍において感染予防対策を取りながら、日々の業務を行っています。

東京都立東大和療育センターについて説明します。①重症心身障害児(者)(以下重症児(者))の入所施設 ②短期入所・通所事業の在宅医療 ③重症児(者)及び発達障害児(者)対象の外来診療の3つの機能があります。重症児(者)とは、重度の知的障害と、重度の身体障害が重複している人です。開設30年を迎え、病棟長期利用者(以下利用者)も平均年齢54歳で、最高年齢は



歯科スタッフ

74歳となりました。呼吸器障害・嚥下障害のため、人工呼吸器の使用率や経管栄養摂取となる人が増加しており、更に骨粗鬆症による骨折のリスクなど身体に問題が生じています。医療の発展と共に、医療的ケアを必要とする外来患者も年々増加しています。より良い治療やケアの提供と、医療事故がないよう十分な配慮が求められます。そのため口腔の状況だけでなく、基礎疾患や既往歴の把握、現在の状況など多職種と情報共有が必要不可欠です。

令和2年2月下旬から新型コロナウイルス感染症予防対策のため、外来診療が縮小され、業務に大きな変化がありました。そこで、専門性を活かし、各病棟へ口腔衛生のサポートを提案し実施しました。病棟に入所している利用者への口腔のケアに介入



朝のミーティングの様子

することで、QOLの向上や歯科疾患の早期発見・治療に繋が



診療の様子

り、口腔内状況や身体的状況の情報共有を多職種と円滑に連携ができました。また、利用者や病棟職員とのコミュニケーションが充実し、口腔

衛生の重要性が再認識されました。障害者歯科認定歯科衛生士、看護科主任として質の高い医療を目指し、日々課題や問題解決に取り組んでいます。

今後の課題は、外来患者の親の高齢化や、病棟利用者の終末期における口腔衛生のサポートです。ご本人のみならず、ご家族や周囲の人への配慮を意識し、専門的支援を続けたいと考えています。また、業務の制限により歯科スタッフも不安やストレスを抱えている現状があり、スタッフへの配慮も忘れてはならない業務です。



病棟口腔ケア学習会

5年・10年後のビジョンとして、後進の育成にも力を注ぎ、チームワークの良い職場づくりの構築をしたいと考えています。そして、インクルーシブな支援をすることで、質の高い医療が受けられる環境への一助となることを最終目標に、これからも精進していきたいと思っています。



滋賀県歯科衛生士会

滋賀県歯科衛生士会の組織拡大に向けた取り組み



一般社団法人 滋賀県歯科衛生士会 副会長 溝井 敬子

滋賀県歯科衛生士会は歯科衛生士の資質の向上に努め、社会に寄与することを目的に活動しています。

口から始まる健康を守るには、歯科衛生士会の組織力の強化が必要ですが、本会の会員数は平成30年度195名、令和3年度の年度当初の会員数は189名と減少していました。

このような状況の中における、本会で実施した組織拡大の取り組みで「復職支援担当理事の設置」と「組織拡大委員会の活動」について報告します。

① 復職支援担当理事の設置

新人復職支援は、組織拡大には欠かせない重要な役割を持つ職務と考え、平成30年度より新人復職支援を担当する理事を設けています。滋賀県で就職した新人歯科衛生士が仕事を続けやすいように、また復職を志す方の臨床への復帰のお手伝いができるよう、研修会を実施しています。復職支援は歯科医師会と連携し、新人は歯科衛生士養成校と協力し支援する体制を強化しています。

② 組織拡大委員会の活動

令和3年度、会員数が減少したことに危機感を持ち組織拡大委員会が発足しました。

当会では新卒や若い歯科衛生士が極端に少なく、学生会員がほとんどいない状態です。学生に滋賀県歯科衛生士会の存在を周知し、学生会員、新卒会員獲得につながるよう、学生だより「笑顔・きらい」を発行しました(図1)。滋賀県唯一の歯科衛生士養成校である滋賀県立総合保健専門学校にご協力をいただき、2ヶ月に一度3学年全教室に掲示をお願いしています。記事の内容は、現役の学生に歯科衛生士の魅力を伝えるもので、様々なキャリア

を持つ会員が、生き生きと活躍されている様子をインタビュー形式で紹介しています。これからも長く歯科衛生士として活躍する学生を応援し、様々な活動をしていきたいと考えています。

また、日本歯科衛生士会の学会等参加プロジェクトを利用して、令和3年10月3日(日)滋賀県歯科医師会主催のマッチング

プログラム(歯科医院の就職説明会)にて、本会の入会案内をしました。本県に就職希望の学生、引率の先生方、歯科医師の先生方と直接情報交換ができ、今後の連携にも繋がる取り組みとなりました(図2)。

さらに退会防止の観点から、オンラインが苦手な方が研修会に参加できる取り組みを検討し、令和4年5月15日(日)に即実践に繋がるオンライン研修のフォ

ローアップセミナーを開催しました。新型コロナウイルス感染対策をした集合型開催で、パソコンやスマートフォンのWi-Fi設定



図2: 学会等参加プロジェクト



図3: 組織拡大研修会 パソコン使ったフォロー研修

からサポートをし、参加者の多くがオンライン研修に申し込むことができました(図3)。組織拡大委員会の活動は始まったばかりであり、これからも展開していく必要があると考えています。

最後になりますが、日本歯科衛生士会と滋賀県歯科衛生士会の発展のため、今後も組織拡大に取り組みしていきたいと思っております。この取り組みが一人でも多くの方の心に届くよう願います。



組織委員会
感想はこちらから

2022/9/30
まで受付中

笑顔・きらい

R.3.9.13 第3号

* 滋賀県
歯科衛生士会 *

学生時代の自分に向けて声をかけるとしたら?

往復3時間以上の通学、アルバイトしながらよく頑張ったね。もう少し勉強も頑張った方が良かったよ。

今はどんなことをされていますか?

39年9ヶ月勤務した歯科医院を4月に退職し、訪問歯科の研修で勉強中です。知らないことばかりで覚えることがたくさんあります。

学生さんに向けてメッセージをお願いします

悩む事も多くあると思いますが、やりがいのある仕事です。1つ1つに全力を尽くし、誠実で魅力ある歯科衛生士を目指してください。同期の仲間とは交流し、何名かは今も一緒に仕事をしています。友達との絆や相談相手を大切にしながらより良い方向に頑張ってください。報告・連絡・相談大事ですよ。

歯科衛生士を選ばれた理由を教えてください

戦死した叔父が和歌山で歯科医院を開業しており、同じ学校を卒業された歯科の先生より歯科衛生士という資格を勧められました。資格取得目的の軽い気持ちでした。

図1: 学生だより「笑顔・きらい」

令和4年度「歯科衛生士復職支援・ 離職防止等研修指導者養成研修事業」について

今年度も標記の研修事業を下記のスケジュールにて行います。本事業は、新人歯科衛生士の離職防止と復職支援を地域において実践する指導者を養成するための研修です。歯科衛生士不足を解消して歯科衛生士の専門性を高めるために、本研修の受講は欠かせません。今年度も具体的な新人歯科衛生士の育成プログラム等を紹介する予定です。研修対象者は、①都道府県歯科衛生士会の企画運営を担当する者、②歯科衛生士養成機関の専任教員、実習指導員、③臨床実習施設等で指導を行っている者、④③のほか、臨地実習施設等で指導を行っている者です。

令和3年度に引き続き、オンラインで開催いたします。8月初旬に本会ホームページにて受講生を募集いたします。

	研修日程(オンライン開催)
第1回	令和4年10月29日(土)~30日(日)
第2回	令和4年11月26日(土)~27日(日)
第3回	令和4年12月10日(土)~11日(日)
第4回	令和5年 1月28日(土)~29日(日)



Linking JDHA to IFDH

『International Journal of Dental Hygiene』

本会では、国際歯科衛生士連盟が発行する学術誌「International Journal of Dental Hygiene(IJDH)」を購読しています。会員の皆様にはIJDHが無料公開されているウェブサイトから直接アクセスできるように、最新号のURLを公開いたします。

有料の部分については、IJDHを本会で閲覧することができます。国際協力委員会までお申込みください。(FAX 03-3209-8023)

国際歯科衛生士誌

2022年5月 第20巻2号

本号は原著論文を中心に28編で構成されています。歯科衛生士の業務や学生教育に関する各国の論文のうち、日本からは田野ルミ氏による全国の歯科衛生士養成校を対象としたキャリア教育に関する調査研究が掲載されています。また、歯周病治療のインスツルメンテーションや洗口液などに関する論文も多数掲載されており、臨床実践に活かせる情報を得られます。



(国際協力委員会 宮澤 絢子)

理事会報告

令和4年度第1回理事会が令和4年5月22日(日)に開催された。審議事項および報告事項は次のとおりである。

審議事項

- (1) 令和3年度事業報告(案)について
- (2) 令和3年度決算報告(案)について
- (3) 令和3年度特定費用準備資金等の積立について
- (4) 令和3年度事業報告に係る提出書(内閣府)について
- (5) 選挙管理委員の選任(案)について
- (6) 令和4年度会長表彰について
- (7) 令和4年度「地域歯科衛生活動」助成事業(案)について
- (8) 広報委員会委員の委嘱について
- (9) 新入会員の承認について
- (10) 日本歯周病学会 令和5-6年度5項理事の推薦について
- (11) 理事の職務分掌について
- (12) 令和4年度災害歯科保健歯科衛生士育成研修および災害時に活動する歯科衛生士の登録について
- (13) 都道府県歯科衛生士会への研修支援について
- (14) DH+KENコンテンツ講師によるオンラインLIVE講演会開催について
- (15) 日本歯科衛生士学会第17回学術大会開催要領(変更案)について
- (16) 高槻高等学校生徒の「咀嚼」に関する課題研究について
- (17) 歯科衛生士試験企画評価委員会委員の委嘱依頼について
- (18) 厚生労働省「歯科健康診査推進事業検討委員会」委員の委嘱依頼について
- (19) その他
第67回日本口腔外科学会総会・学術大会「第14回歯科衛生士研究会」について

報告事項

- (1) 会務報告について
 - ① 業務執行理事等の職務執行報告について
 - ② 常務理事会の報告について
 - ③ 常任委員会等の報告について
- (2) 第4回専門歯科衛生士制度検討小委員会について
- (3) 監査実施報告について
- (4) 歯科衛生士復職支援・離職防止等研修指導者養成研修事業について
- (5) 令和3年度地域歯科衛生活動事業助成実施報告書について
- (6) 令和4年度歯と口の健康週間について
- (7) 第79回全国小学生歯みがき大会組織委員会報告について
- (8) 令和3年度第2回チーム医療推進協議会総会報告について
- (9) 第31回歯科衛生士国家試験の実施状況について
- (10) 後援名義使用及び生涯研修制度の研修単位認定について
- (11) 参与の採用について
- (12) 2022-2023(令和4-5)年度一般社団法人日本障害者歯科学会災害対策委員会委員の派遣について
- (13) 2040年を見据えた歯科ビジョンフォローアップ会議について
- (14) 令和4年度愛知学院大学短期大学部歯科衛生士リカレント研修センター運営会議オブザーバーの委嘱について
- (15) 東京医科歯科大学病院歯科衛生士総合研修センターについて
- (16) 施設における口腔健康管理マニュアルについて
- (17) オンライン認定研修における講演動画の作成、データ管理等の業者委託について
- (18) 厚生労働省「歯周病予防に関する実証事業」検討委員会委員の委嘱について
- (19) 武井典子さんを偲ぶ会について